

■循環器・腎臓内科

○循環器・腎臓内科の現状と今後の展望

循環器・腎臓内科は現在5名のスタッフで診療にあたっている。

当科が対象とする疾患は、狭心症・心不全・不整脈などの心疾患、大動脈瘤・閉塞性動脈硬化症などの血管疾患、慢性腎不全・ネフローゼ症候群などの腎疾患、高血圧症、糖尿病、高脂血症など多岐にわたっている。本年度は特に腎疾患の診療に重点を置くため「腎臓病センター」を開設し、初期腎疾患から末期腎不全まで総合的に診療できる体制が徐々に整いつつある。本年1月から9月までの主要検査・手術実績は別表のとおりである。

循環器部門においては、心臓カテーテル検査件数はここ数年横ばいである。冠動脈インターベンション（経皮的冠動脈形成術・ステント留置術）の導入が他院よりも遅かったため、その症例数はまだまだ少ないが、今後精力的に取り組んでいきたい。閉塞性動脈硬化症などの末梢血管疾患に対する検査・治療も行っており、本年度は再発性の腸骨静脈狭窄症に対してステント留置術を施行した。最近話題になっている肺血栓塞栓症（いわゆるエコノミークラス症候群）に対しては、予防目的に下大静脈フィルター留置術を施行した。徐脈性不整脈（房室ブロック・洞不全症候群等）に対するペースメーカー手術数は例年通りである。

腎臓部門では本年5月から夜間透析を開始している。従来の4F病棟(透析A室・B室)に加え、3階に10床を増設した。日中の就労後に来院することができ、QOL改善に一助するものと期待される。慢性腎不全の治療には自己管理の徹底が不可欠であるが、腎臓部門では本年度から腎臓病教室を開催しており、主に保存期腎不全患者さんの教育・啓蒙につとめている。第一回(7月3日)は札幌市医師会館にて札幌大第二内科の浦助教をお招きし講演をいただいた。第二回は10月16日に3階講堂で相内管理栄養士に食事療法についてのコツをお話いただいた。食品のサンプルも提供され好評であった。

高血圧症・糖尿病・高脂血症といった生活習慣病は年々増加しており、特に心疾患・腎疾患に合併する場合は非常に多く見られる。当科ではこれら生活習慣病と心疾患・腎疾患とを総合的に診療していくことを心がけている。

○循環器・腎臓内科スケジュール

毎週月曜日 17:00～	文献抄読会・造影検査検討会
毎週火曜日or 金曜日 13:30～	一般病棟カンファレンス
第一月曜日 16:30～	療養病棟カンファレンス
第一を除く月曜日 16:00～	透析カンファレンス

文責 後藤 真彦
青山 真也

表 循環器・腎臓内科における2004年主要検査・手術実績（症例数）

	1～3月	4～6月	7～9月
心臓カテーテル検査	14	13	10
冠動脈インターベンション (PCI)	5	1	1
下肢動脈造影	0	1	1
下肢静脈造影	1	0	0
腸骨静脈ステント留置術	0	1	0
下大動脈フィルター留置術	0	1	0
シャント・上肢静脈造影	11	15	9
シャント血管形成術 (PTA)	3	11	3
その他造影	0	2	2
ペースメーカー手術	2	5	2
シャント手術	14	0	4
腎生検	2	1	2

工藤 靖夫 (くどうやすお)

履 歴

1979年 札幌医科大学医学部卒業
1983年 ロンドン大学セントトーマス病院留学
1984年 南アラバマ大学生理学教室客員研究員
1983年 札幌医科大学集中治療室助手 兼透析室長
1987年 札幌医科大学第二内科助手
1993年 南一条病院腎臓内科主任医長
1997年 札幌医科大学非常勤講師
1999年 南一条病院循環器内科主任医長
2002年 南一条病院副院長
2003年 札幌医科大学臨床助教授
2004年 札幌南一条病院院長

1987年 医学博士
1989年 認定内科医
1991年 循環器専門医
1994年 透析医学会認定医
1997年 札幌市医師会勤務医委員会副委員長
2000年 北海道透析医学会幹事
2003年 札幌市勤務医協議会副会長
日本循環器学会北海道地方会評議員
2004年 札幌市医師会代議員
日本内科学会北海道地方会幹事

2004年度上半期活動報告

学会発表 第49回日本透析医学会学術集会 6月18日-20日(神戸)
慢性透析患者の味覚障害(特に塩分味覚について)

講 演 道腎協 記念医療講演 5月30日
透析患者さんの心臓のはなし
(よりよい生活を送るために)

青山 真也 (あおやま しんや)

履 歴

1990年 3 月 札幌医科大学医学部卒業
1990年 4 月 札幌医科大学医学部第2内科入局
1991年～1997年 市立室蘭総合病院、手稲溪仁会病院、
苫小牧王子総合病院、新日鉄室蘭総合病院 勤務
1997年 4 月 南一条病院勤務
2000年 4 月 南一条病院 循環器内科医長

医学博士
日本内科学会
日本循環器学会
日本糖尿病学会
日本老年医学会
日本透析医学会
日本高血圧学会

2004年度上半期活動報告

講 演 札幌市中央区保健所主催 8月19日
血液サラサラ学 講演

後藤 真彦（ごとう まひこ）

専 門

循環器疾患・腎疾患

資 格

日本内科学会 認定内科医

日本循環器学会 循環器専門医

所属学会

日本内科学会

日本循環器学会

北海道透析療法学会

研修施設・勤務施設・留学先

札幌医科大学医学部 第二内科

北海道社会事業協会 帯広病院

旭川赤十字病院

北海道立北見病院

南アラバマ大学 生理学教室

一 言

当院に勤務して8年目になります。循環器疾患・血液透析等を担当しています。循環器疾患といえばやはり狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患が中心になります。当院における心臓カテーテル検査や冠動脈インターベンションの症例数は以前より増加したとはいえ、他院に比べますとまだまだ遅れているのが現状です。今後もあせらずに取り組んでいきたいと思っています。血液透析に関しては、長期透析患者の増加・透析患者の高齢化に伴い、狭心症・不整脈・心不全などの循環器疾患を合併する患者さんが非常に増えています。当科では循環器疾患・腎疾患の両方を担当していますので、これらの患者さんに対して心・腎の両面から総合的な診療を提供することを目標にしています。

伊藤 洋輔 (いとう ようすけ)

履 歴

1996年 3月 札幌医科大学医学部卒業
1996年 4月 札幌医科大学医学部第二内科勤務
1997年 北海道社会事業協会帯広病院第二内科勤務
1998年 4月 札幌医科大学医学部第二内科 勤務
1999年 4月 新日鉄室蘭総合病院 循環器内科 勤務
2000年10月 札幌医科大学医学部第二内科 勤務
2001年 4月 町立阿寒国保病院勤務
2001年10月 新潟大学医学部第二内科 勤務
2002年 4月 道央病院 勤務
2004年 9月 札幌南一条病院 勤務

医学博士

日本内科学会 認定医

日本循環器学会 専門医

北海道透析療法学会

森山 浩（もりやま ひろし）

8月から毎週月・火・水曜日に外来勤務している森山浩です。

簡単に自己紹介させていただきます。生れは稚内、育ちは殆んど札幌です。

札幌南高校を卒業し、北大の教養学部を経て、札幌医大に入りました。第7期生です。

学生時代は勉強そっちのけで野球に熱中し、喜んだり、泣いたり、その頃は弱いチームだったので泣く方が多かったと思います。

そこで故長崎先生にしごかれました。部員もまだ少なく、よくコミュニケーションがとれ厳しくもやさしく接していただいたのが思い出されます。

卒業、インターン後、長崎先生の後を追った訳ではないのですが、誘われて内科学教室に入局しました。当時、内科はひとつでしたが内部で和田教授の消化器系、宮原助教授の循環器系にわけており、私は長崎先生と同じ、循環器系を目指しました。

その後、内科は二つに分かれて、第一内科、第二内科が誕生し、長崎先生が初代局長となり、そこでも指導を受けました。皆様の知っている先生の姿勢と全くかわらない考え方、生き方の人でした。やがて教室の劣等性も何とか一人前となり、昭和46年上士幌という十勝の町で開業し昭和55年には病院を法人化、その時の事務長が西田さんで彼には色々と助けられました。

そして、上士幌の病院も企業として力を付けてきた頃、同期生の故中村順一から、現在の当病院を譲るからという話がありまして南一条病院が誕生しました。

昭和56年です。規模が大きいだけに経営が軌道に乗るまでは心配の連続でしたが、何とか先生方、事務方々の協力でここまで来ました。そして昨年、自分の年齢も考えて徳田先生にお願いして身軽になり、さらにこの8月から一兵卒として世話になる事となりました。

多くは長崎先生の診ていた患者さんを引き継ぐ事になりましたが、皆さん、患者さんに迷惑を掛けずにすめばと考えています。よろしくお願いします。